

# 映画「わが青春つきるともー 伊藤千代子の生涯」の感想文

11月20日・岩村コミュニティセンター上映での感想文  
を紹介します。(伊藤千代子の会ニュースより)



岐阜県版  
第392号  
2023年3月15日

治安維持法国際同盟  
岐阜県本部  
〒500-8879  
岐阜市徹明通7-13  
岐阜県教育会館308号室  
Tel 058-252-5366  
振替00840-2-88638

先日は映画  
す。

にお誘いいた  
だきありがと  
うございました  
た！末子がい  
るので、最後  
までみるのは  
難しいかなと  
思っていました  
が、なんと素  
晴らしいサポ  
ーターの方々の  
おかげで、ゆっ  
くり鑑賞する  
ことができて、  
嬉しかったで  
す。心から感  
謝申し上げます

私は、この映画をみて、集団意識とは  
これほど恐ろしいものかと感じました。  
右と左、どちらが正しいということよ  
りも、どちらの立場も、私には異常に  
感じました。

千代子さんは、もちろん正しいことを  
いつている、暴力は絶対許されるもので  
はない：：だけれども、そこにあるのは、  
対立、対立、抗争の連続：：。

確かに立場の弱いもの同士、団結す  
るのは、合理的な考えではあると思  
いますが、対立からは何も生まれないの  
かなと、やはり再認識させてもらいま  
した。

終盤、千代子さんが夫に裏切られ、  
発狂してゆくところで、やはり、愛のみ  
が人間というおろかで愛しい存在を変

質させることの出来る、唯一無二の確  
かなものであると感じました。

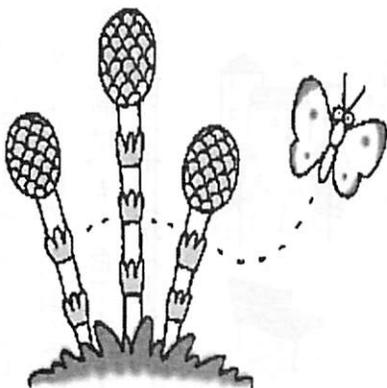
対立がなければ、平和は勝ち取れな  
い、そうでなくて、お互いに尊重し合え  
る社会、叶うことが出来る時代に突入  
したなど感じております。

この度いろいろ考えるきっかけをくだ  
さり、ありがとうございました。

(三〇代)

私たちの運動の基本  
ふたたび戦争と暗黒政治を許さないために

- 一、治安維持法体制の復活に反対する
- 二、国は、戦前の治安維持法が、人道に反する悪法である事を認めること
- 三、国は、治安維持法の犠牲者に、謝罪と賠償をおこなう事



# 戦争に翻弄された落語界

岐阜支部 堀田 紀治

①一九四〇年に日本  
芸能文化連盟ができ、  
各芸能団体は、劇・映  
画・講談・浪曲・漫才な  
どの演目に自粛を要請  
した。

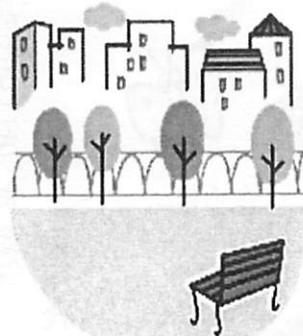
これを受け落語会は、  
顧問の野村無名庵を中  
心に、幹部と席亭が落  
語全般を検討し甲乙丙  
丁の四種類に分類し、  
廓嘶・花柳物・妾物・酒  
の嘶など五十三本を禁  
演する事にした。

「明鳥・栗餅・磯の鮑・  
居残り・お茶汲み・おは  
らい・お見立て・首った  
け・廓大学・子別れ・五  
人まわし・三助けの遊び・三人兄弟・三  
人片輪・三枚起請・品川心中・高尾・辰  
巳の辻占・付き馬・突き落し・搦屋無間・  
とんちき・二階ぞめき・錦の袈裟・白銅・  
ひねりや・文違い・坊主の遊び・万歳の  
遊び・木乃伊取り・山崎屋・よかちよろ・

氏子中・親子茶屋・紙入れ・蛙茶番・駒  
長・後生鰻・権助提灯・白木屋・せんき  
んの虫・つづら・にせ金・一つ穴・引越し  
の夢・不動坊・包丁・星野屋・宮戸川・目  
葉・恪気独楽・六尺棒」。さらに演題を  
決めただけではすぐ忘れられる、「何  
か記念碑を建てよう」となり、費用は  
みんなで出し合い「はなし塚」を建てる  
ことになった。戦争が始まる寸前の一  
九四一年一〇月三〇日、浅草寿町三  
丁目の本法寺境内に、落語通の長老鶯  
亭金弁が題字を書き、「はなし塚」が建  
てられ、演題名と扇子と手拭いが納め  
られた。

また、戦争協力の新作落語が作られ  
演じられた。一例をあげると、金語楼  
は「貯金帳」の演題で、「一億一心百二  
十億貯蓄、百二十億と考えただけでも、  
ちよつとどのくらいだろうと、見当がつ  
かない金額ですが、国民が『やるぞ』と、  
腹さえ決まれば、なんでもないんだそ  
うです。私たちが、赤ん坊で生まれた  
ときから、七十歳ぐらいまで飲まず食  
わず、寝ないで働き通しても、百二十

億にはちと縁が遠いようです。しかし、  
一億の国民が、よし、協力、お国のため  
だと、自覚した時は、もう百二十億で  
きた時なんだそうです。(次ページへ)



## 訃報

県本部事務局長の赤星守雄さん、  
二月二四日朝(病気のため)死去  
されました。八三歳、二五日家族  
葬。心からご冥福を祈ります。

なお、三月六日、県本部常任理  
事会を開き、県本部事務局長を、  
中央常任理事・県本部事務局次  
長の高井節子さんをお願いするこ  
とに決まりました。

してみると、大勢の力、団結というものは凄いです。けど、中には、時局を認識しないで、贅沢したり、買いたい物を買っている人もありますが、贅沢は敵だ、国民精神総動員だ、と、知らず知らずに教え込まれて、善良な日本人なる転向者も続出してくるでしょう」と言い、漸にも「ただこの銃後のご奉公にはですナ、お父さん、まず何よりも私は献金をいたそうと、こう思いました」という言葉を入れ国策協力の姿勢を示した。「このような忠義立ては、いかにも落語界らしいオッチョコチョイの先走りだし、戦争協力を強制された新作落語のねじまげられた暗い姿がある」と近代文学研究家の興津要は指摘している。

②戦争が終わり、自由が戻ったというので「落語祭」が、一九四六年九月三十日、やは熊谷稻荷の碑前でおこなわれた。これで五十三種も自由になった。

ところが、一九四五年九月二二日、GHQからの命令で、仇討ち、復習はダ

メ、好戦的排他的なものダメ、歴史を曲解したものダメ。婦人子供の虐待などんでもない。ポツダム宣言の主旨に反するものもいけないなど「べからず集」で、鬼より怖いGHQ、しかも今度は自粛でなく命令だから、みんな震え上がった。次の二十種がピックアップされ「はなし塚」に葬られた。(桃太郎・将棋の殿様・景清・巖流島・高尾・後生鰻・お七・肝つぶし・寝床・宗論・四段目・花見の仇討ち・袈裟御前・写真の仇討ち・山岡角兵衛・宿屋の仇討ち・ちきり伊勢屋、毛氈芝居・城木屋・くしゃみ講釈)その後、自然消滅的に解禁されたが、「はなし塚」は今も残っている。

※戦争は、人々の笑いまで支配、統制しようとするが、支配しきれれるものではなかった。庶民は負けずジョーク、落首、替え歌などで細やかな抵抗を行なっていた。



(資料・「治安維持法と現代」誌、2019年秋季号NO・38号より)

# 「再び戦争と暗黒政治を許すな」の 同盟スローガンはいつ誕生したのか

牛山 靖夫

## ■はじめに

「再び戦争と暗黒政治を許すな」。私たち同盟の目的と役割を鮮明に表わした、素晴らしいスローガン旗印です。

同盟は2018年3月15日に創立50周年を迎えました。「創立50周年記念・同盟運動躍進年間」に取り組み、最高の峰に到達した会員数で、こ

とし6月に第39回全国大会を成功させました。こうした同盟運動の大きな躍進の原動力になっているのが、このスローガンです。今の情勢にぴたりです。

安倍内閣は特定秘密保護法、安保法制、戦争法、治安維持法の現代版である共謀罪法を次々に強行してきました。「海外で戦争する国づくり」をめ

ざし、あくまで9条改憲をたくらんでいます。それだけに「再び戦争と暗黒政治を許すな」のスローガンがもつ意味はますます重要になっています。

この旗印のもと、私たちは国に治安維持法犠牲者への謝罪と賠償を求めるとともに、犠牲者の不屈の「たたかいと抵抗の歴史」を学び、頭彰し、語りつぐ活動をすすめています。他の団体とも違う、同盟ならではの役割と活動が、この旗印に込められています。

## ■30年前、3・15弾圧60周年から

同盟のスローガン旗印は、いつどのように誕生したのか、創立50周年にあたり、同盟の歴史を学ぼうと調べてみました。

何事も物事には始まりがありますが、たいがいは始まりのその始まりがあります。同盟のスローガンにも始まりの始まりがありました。

中央の「不屈」合本を、創刊号から調べてみると、30年前の1988年の3・15弾圧60周年の集会和創立20周年の第20回全国大会から、このスローガンが使われていました。

①「不屈」165号(88年3月)の目次に「3・

15弾圧60年特集」号として「再び戦争と暗黒政治をゆるすな」とあります。これが初出です。(註以下、引用文の漢数字を洋数字に統一する)

1面に「治安維持法3・15事件60周年の教訓」「いま再び戦争と暗黒政治の復活許すな」とあります。

②「不屈」166号(88年4月)の1面に「今再び戦争と暗黒政治を許さず」とあります。本文に「不屈」165号で各地の大小集会所が開かれることを報じたが、「3・15の歴史に学び今を告発する」を主題に「再び戦争と暗黒政治を許さず」のメインスローガンを高々と掲げ、主要18カ所で講演会または学習会を開催し2千名以上の聴衆が動員され、まさに歴史的な行動となりました」とあります。

③「不屈」167号(88年5月)の1面に「治安維持法同盟創立20周年全国大会」再



「戦争と暗黒政治をゆるさぬ大結集で」とあり  
 本文に「再び戦争と暗黒政治を許さず」  
 をかけ、戦前の治安維持法の犠牲者によつて  
 発足したわが同盟は、ここに創立20周年を  
 迎え、最高の隊列を持つて第20回大会を盛  
 大に開催する事を得ました」とあります。

④このように88年3月の3・15弾圧事件60周年の集会で初めて、しかも最初から「メイ  
 ンスローガン」として各地で使われたことがわか  
 ります。

そして5月の同盟創立20周年の第20回全  
 国大会をて全国に定着したのと思ひます。

⑤けれども、どこで決まったのかその点がわか  
 る記述は「不屈」にも同盟の「年表」(20年版・  
 30年版・40年版)にも、見あたりませんでした。  
 た。

その手がかりが、同盟が93年5月に発行し  
 たテキスト「ふたたび戦争と暗黒政治を許す  
 な」にありました。

テキストには、「運動の基本の確立」の項に  
 「犠牲者以外の人たちもたくさん入会してく  
 れるようになった最初の転機は、長野に組織  
 ができて、その時の情勢を端的に反映した「ふ  
 たたび戦争と暗黒政治を許すな」というすば  
 らしい合い言葉業業を使ってくれたときでした」  
 とあります。

そこで中央常任理事会があつたとき、中央  
 本部や長野県本部の役員に尋ねましたが確  
 かな回答は得られませんでした。スローガンが  
 使われ始めて30年、テキストが発行されて2  
 5年が過ぎていたからです。

### ■始まりの始まりは長野県本部 から

①次の常任理事会があつたときに、うけしい  
 ことに、長野の遠山茂治さんが30年前の「不  
 屈」長野県版の「スピー」を届けてくれました。

その後も長野の会員(私の小中学校時代の  
 同級生です)から、何点もの「不屈」長野県版  
 が送られてきました。そればかりか、岩手の同  
 盟は91年の結成ですが、結成前に引き継い  
 だ綴りの中からも「不屈」長野県版が出て来  
 ました。

余談ですが、「欲しい資料向こうからやってく  
 る」。捜し物をしていると、そんな気がするこ  
 とが時々あります。こうして多くのことがわか  
 りました。以下、要約して経過を報告します。

②長野県に同盟の支部が結成されたのは7  
 6年ですが、85年の第10回躍進総会活動  
 報告・運動方針(案)に「つあります」。

「1976年1月、民社党の春日一幸委員長  
 等が、第7通常国会の衆院本会議で、戦前  
 の治安維持法等被告事件をとりあげ、国会  
 を反共攻撃の党略の舞台とした。これにたいし

県下の民主勢力は……たちあがった。

この運動の中で2月13日、戦前の活動家ら  
 13名によつて、再び暗黒政治を許すなをスロ  
 ーガンに長野県支部が発足した。「不屈」長野  
 県版57号。85年7月)。

③発足当初の「支部だより」1号(77年5月)  
 「暗黒政治の再現をくらんでいる」、「支部だ  
 より」2号(78年1月)には「暗黒政治を復活  
 させようとする動きが露骨」などの記述はあ  
 りますが、まだスローガンにはなっていない。  
 「不屈」長野県版29号(82年7月)には「  
 再び暗黒政治許さじ」の決意/第7回総会  
 開く」とあるように、次第にスローガン化してい  
 たようです。

④そして85年の第10回県支部総会で前



記の通り「再び暗黒政治を許すな」がスローガンとなりま

⑤86年7月の第11回総会の活動報告・運動方針には「再び暗黒政治を許すな」の旗幟を鮮明に、決意を新たに県本部発展への第一歩を踏み出そう」とあります。県支部から県本部へ発展したときです。

このときはスローガンの原型がつくられていません。

⑥テキストにある「長野に組織ができて」「すばらしい合言葉を使ってくれた」とは、このことだろうと思います。

こうしてスローガンは中央でも議論になり、全国に広がって、88年の3・15弾圧事件60周年の集会で各地で使われるようになったのでしよう。

⑦ところが、長野の3・15事件8周年記念集会では「ふたたび戦争と暗黒の政治をゆるさず」を掲げています（「不屈」長野県版88号、88年3月）

「侵略」「戦争」に変わっていますが、「暗黒の政治」はそのままです。88年7月の第3回総会では「再び戦争と暗黒政治を許すな」と染めぬいた同盟旗をつくって披露しています。

この辺りが物事の始まりの始まりの面白い点です。

以上が、赤い同盟旗にも、黄色い幟旗にも、

まさに旗印として染めぬかれている「再び戦争と暗黒政治を許すな」のスローガンの誕生のいきさつです。

同盟の歴史として大事なことですので、記憶にも残してほしいと思います、寄稿します。

本来なら長野県同盟から報告していただくのが筋ですが、いきががりもあって私から報告とします。

（うしやま やすお  
同盟岩手県本部会長）



## 会員の皆さん、 黄色い署名に取り組んでください

中濃支部 山田 弘

昨年暮れ、12月28日放送の「徹子の部屋」で黒柳徹子さんから「来年はどんな年になりますかねえ」と聞かれたタレントのタモリさんが「来年は新しい戦前になるんじゃないでしょうか。」と発言し、ネットでたちまち話題をさらいました。

12月16日岸田内閣は「安全保障3文書」を閣議決定し専守防衛を投げ捨て大軍拡、大增税の道を突き進むようとしています。

「再び戦争と暗黒政治を許さない」ために、国賠同盟に参加している皆さん、黄色い署名を1筆でも多く集めてください。署名は身近な同盟役員の方に預けてください。

今年50回目の国会請願は、5月17日の予定です。